

## 開院レポート：東千葉メディカルセンター

東千葉メディカルセンターは、既存の公立病院等を引き継いで運営する病院ではなく、新しい医療機関を運営するために独立行政法人を設立し、立ち上げられた病院です。地域ニーズを踏まえて救命救急医療、急性期医療に軸を置いた地域中核病院としての役割を担っています。

### 【病院立上の経緯】

かねてから、当時の山武・長生・夷隅医療圏においては千葉県で唯一救命救急センターが設置されていないなど医療提供体制の再整備が求められていました。千葉県では等地域の医療を改善するため平成15年より「地域医療センター」の整備に関する検討が行われてきましたが、地域全体として推進していく環境を作ることができませんでした。

しかし、これ以上医療環境の悪化は放置できない状況にあるとして、平成20年に1市1町（東金市、九十九里町）に対し、「山武長生夷隅保健医療圏における地域医療センターについての県試案」を提示され、その試案をもとに1市1町により、「病院機能」「病院経営」「経営主体」に関する検討が行われました。

その結果、救命救急センターを中心とした314床の地方独立行政法人による運営を決定するとともに、新病院の運営に欠かせない医師の確保に関しては千葉大学が全面的にバックアップすることとなったため、計画を具体的に推進することとなりました。

その後、平成22年に基本設計、平成23年に実施設計、平成24～25年に建設工事と進み、平成26年4月1日に開院を迎えることができました。

### 【基本情報】

#### ＜基本理念＞

患者の権利を尊重し、救急医療・急性期医療を核とした地域中核病院として地域住民に信頼される高度で安全な医療を行います。

#### ＜基本方針＞

- ・救命救急センターを併設して24時間、365日の救急医療の提供を行います
- ・高度な専門医療の提供を行い、地域住民の生命と健康を守ります
- ・常に安全・安心の医療を行います
- ・患者の権利を尊重し、常に患者第一の医療提供を行います
- ・医療連携を推進し、地域の患者により良い医療を提供します
- ・地域の中核病院として、地域医療機関と密接な連携を図ります
- ・医療従事者の教育・研修に努め、継続的に地域における医療の質の向上を図ります
- ・千葉大学医学部・同附属病院と密接に連携して診療を行います
- ・健全経営に努めるとともに、生き生きとした職場づくりに努めます
- ・地域の保健・医療に貢献するため、地域中核病院としての役割を担います

#### ＜開院日＞

平成26年4月1日 救急外来オープン

平成26年4月2日 外来オープン

#### ＜病床数＞

314床（一般病床：294床、ICU：10床、HCU：10床）

※安定した病院運営を実施するために、開院後3年間にわたり、段階的に病床を稼働する予定です。

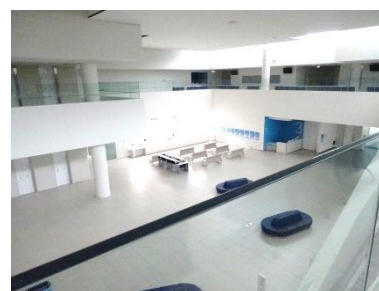
平成26年度：146床、平成27年度：230床、平成28年度：314床

#### ＜診療科＞

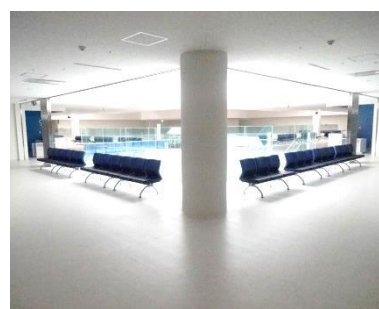
内科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科、循環器内科、代謝・内分泌内



外観



エントランス



外来診療待合スペース

科、小児科、外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、精神科、歯科口腔外科、救急科

東千葉メディカルセンターの立上にあたり、運営、委託・物流、医療情報システム、医療機器の専門スタッフが各自担当にあたり、支援してきました。

【業務支援概要】

	概要	運営	委託・物流	情報	医療機器
平成21年度	基本構想 基本計画	基本計画作成支援 事業収支計画の検証			
平成22年度	基本設計 実施設計	設計条件検討支援 事業収支計画の更新	基本計画策定	プロジェクト準備 基本計画作成支援 基本設計支援	大型機器配置検証 搬入ルート検証 工事区分調整 予算計画作成 必要設備整理
平成23年度		運営システム計画検討支援 段階的稼働計画検討支援 事業収支計画の更新	運用フロー検討	医療情報システム 調達支援	総合図検証 予算計画精査 機種選定支援
平成24年度	建設工事		仕様書・要綱検討 業者選定	システム開発監理 開院準備支援	機種選定支援 予算管理 入札支援 搬入調整
平成25年度	開院準備	開院準備支援	立上準備		
平成26年度	<b>開院</b>				

## 【各業務支援の実施内容】

### ■運営

弊社の考える運営システムとは、患者や病院職員のニーズに応えることができる計画であり、診療機能や緊急時対応、患者及び職員の動線計画、職員の業務効率、将来拡張性、アメニティ等、さまざまな視点を包括的に捉えたものと定義しています。こうした運営システムの取り纏めは、開院前にあっては、当センターの目指すべき方向性についての職員間周知や開院時のバーチャルイメージの構築、開院後にあっては、教育研修ツールや業務見直し時の検討ツールとして活用することができます。

当センターにおいては、医師や部門責任者の方々をメンバーとして、週1回のペースで診療機能検討会を開催していただき、その中で運営システム構築に関する議論を行っていただきました。しかしながら、開院準備期間においては、病院運営の核となる医師の採用が数名しか決まっていなかったことや医師以外の医療従事者についても出身医療機関がさまざまであることから、病院における基本機能である外来及び入院診療部門の運用ルールの考え方の取り纏めに困難を要しました。このように、他の新築移転事例と大きく異なる部分として、医師をはじめとする医療従事者が開院前後で段階的に採用されていく過程でこれまで決めてきた運用ルールが変更されることを前提としながら、運営システムを構築しなければならないことが挙げられます。

開院前の職員採用が4月1日であったこともあり、4月2日の外来運用開始までに運営システムの詳細部分まで構築することはできませんでしたが、開院後も業務継続させていただく中で、各部門様へのヒアリングや関係者間で意見交換会を通して、運用システムの詳細部分における課題整理に務めさせていただいています。

### ■委託・物流

病院運営においては、運用方法に伴い多数の委託業務が発生します。当センターにおいては、実施設計段階から委託業務の方針、範囲について検討し、業務委託基本計画策定や委託費用に関する検証を行いました。業務委託基本計画策定後は、各業務の仕様範囲の検討や委託業者の選定支援に携わりました。委託業務を検討するためには、当院に携わる様々な業務担当の方との綿密な打合せが必要となります。業務担当者、業務従事者の方々の想いを汲み取るとともに、業務効率と安定した運営を可能とすることを念頭におき、支援させていただきました。

委託業務の中でも、物流管理業務については、平成23年度から運営基本計画及び管理対象物品別の運用フロー検討を実施、平成24年度において運営基本計画に基づいた業務委託仕様書の策定を行い、パートナーとして業務改善に貢献頂くことが可能な委託業者を選定致しました。物品管理業務と滅菌管理業務については部分包括契約とし、術式毎に必要な診療材料・鋼製小物類のセットを物流スタッフにて準備の上、患者個人別カートによる供給を行うケースカート方式を導入頂いております。

### ■医療情報システム

安全・安心かつ質の高い医療の提供を実現する手段として、医療情報システムは非常に重要な役割を果たします。当センターにおける医療情報システムの導入を安全かつ確実に遂行し、円滑なシステム稼働を行うため、基本計画の策定、業者選定、システム開発監理といった開院までの全体的な支援を行いました。

基本計画の策定においては、システム構築の目的や構築範囲、概算費用を整理し、限りある予算の中でも当センターの理念や診療機能を考慮した最適な計画となるよう支援を行いました。基本計画策定後は、システム要求仕様書の作成支援や業者選定方法に関する提案等、業者選定に向けた支援を行いました。

今回のシステム構築を進めるにあたり、重点を置いたのが「パッケージシステムの導入」です。当センターは新設の医療機関であり、平成26年の開院から平成28年にかけて段階的に病床数や診療機能を拡大するという大きな特徴がありました。したがって、定期的なバージョンアップにより常に最新のシステムを使用でき、費用対効果の高いパッケージシステムの導入を進めました。

当センターでは、電子カルテシステムや医事会計システムといった基幹システムをはじめ、放射線部門システムや検査部門システム（検体・細菌・生理）といった部門システムが稼働しています。これらのシステムにより、情報の共有化や医療安全の確保、情報の可視化が実現できました。また、DWH（Data Warehouse）も導入されているため、蓄積された情報を今後の診療支援や臨床研究、経営改善等に活用することが可能となっています。

### ■医療機器

医療機器の整備内容は病院の医療機能を最も端的に示すバロメータであるといえます。施設の目指す機能と整備する機器の内容が一致していなければなりません。また、最新の高度医療機器が整備された環境は職員のモチベーション確保、ひいては患者の救命率向上・予後向上につながります。限られた予算内でこれらを達成するこ

とが我々の責務であります。

今回は新設の医療施設であることから、移転新築事業と違い移設機器がなく必要な機器備品は全て購入することになるため、予算上限に収めるべく非常に多くの時間をかけて調整してきました。また、開設後数年をかけて段階的に稼働していく計画であるため、稼働計画と購入年度計画の整合も慎重に行ってきました。さらに、医療機器設置に際して必須となる設計者・施工者との調整も行いました。

整備内容としては320列エリアディテクタCTや世界最高峰のバイプレーン型アンギオ装置等、救命救急に力を入れていく当センターにふさわしい機種を選定、さらに家具什器や診療小物に至るまで整備を支援してきました。

選定・調達が非常に短期間であったこと、また、予算上の制約があったことから、職員の皆様方のご要望全てを受容することは困難であり心苦しく感じることもありました。しかし、開設後に職員の皆様が積極的に日々活動しておられる姿を見て、今後も微力ながら精一杯の支援をしてきたいという思いを新たにしています。



救急処置室



アンギオCT室



CT室

#### 【総括】

医療計画による病床規制により新設の病院は全国的にも事例が多くありません。しかし、当地域の住民にとっては、新しく高度な急性期医療を担う救命救急センターを有する急性期病院の整備は、必要なものであったと感じています。

病院整備に関わるコンサルタントとして、このような稀有な事例に携われたことに感謝しています。また、理事長を始め当法人及びセンターのスタッフ、設立団体関係者の方々におかれましては、「病院経営経験者がいない」「医師や看護師などのスタッフがいない」「資金も潤沢にあるわけではない」という厳しい状況からの新病院整備に大変なご苦労があったと思います。

今後、貴センターが地域住民の生命と健康を守る最後の砦としての役割を果たされることを切に願っております。

#### 【理事・事務部長より】

東千葉メディカルセンターが平成26年4月1日に診療を開始しました。

当院は、主に地域に不足する救命救急医療の提供を行う病院であると同時に、地方独立行政法人が運営する病院として、自主運営を基本とした民間的発想での経営を求められています。

システム環境研究所においては、計画当初から、病院の規模や機能、人員計画を踏まえた事業収支計画を立案いただき、事業の推進や法人設立の支援を行っていただきました。

その後も、具体的な開院支援として、ICU10床、HCU10床を有する救命救急センターに不可欠な320列CTやハイブリッド手術室に必要な機器など最新の高額医療機器を適正額での調達を支援していただきました。

運営計画支援においては、先導して検討課題とその解決策を提示していただきました。また、病院にとってはまさに血管ともいべき情報システムにおいても、メンテナンスも含めて適正額での調達ができ、無事に開院し大きなトラブルもなく現在まで運営されています。さらに、センター職員はなるべく医療及びその支援に携わる人員のみを雇用する計画であったため、施設監理などの周辺業務に関する委託が多くありましたが、その業者選定においても、適正な範囲と額で選定することができました。

このように、医療機器整備、運営構築、情報システム整備、委託業者選定など多角的で包括的な病院整備支援を行っていただくなど、システム環境研究所に対して期待したとおりの業務を完遂いただいたことにより、無事に開院できたことに感謝します。

以上